

# 芹沢文学読書会

案内通信

No. 149

2021年4月22日(木)

(令和3年)

4月便り

— 草 咲き 初夏となりたり 故里は… 松林庵主人 —

4月末になって、もうすっかり初夏となりました。今年は季節が早く、既に北海道でも梅や桜が咲いているとのこと。お元気にお過ごしのことと思います。

日本の新型コロナウイルスの流行はまた急増し、大阪府・兵庫県では変異株が蔓延し第4派が始まっています。3回目の緊急事態宣言を政府に要請しています。東京都も感染者が急増しています。ワクチンの接種も始められましたが、医療関係者にも接種が遅れています。なぜ、高齢者の接種よりも先に医師や看護師への接種が進まないのでしょうか？ また、感染者の少ない地方の県にワクチンを配るのでしょうか？ これは議員の選挙対策ではないかと思われまます。ワクチンを接種している医師や看護師が接種を受けていないのはおかしいではないですか！ 東京都や急増している県を先にワクチンの接種をするようにしないと、東京五輪の開催が難しくなります。地方で感染者の少ない県は、その後も良いのです。ワクチンの接種で、イスラエルやイギリスは感染者が激減しています。

5月の芹沢文学読書会を下記のように大型連休の後に行います。マスクをつけ、感染対策をしてお出掛け下さい。最近、御無沙汰の方も、気楽に御参加下さい。

## 第149回・芹沢文学読書会

- ①日時: **5月9日(日)** 午前10時～12時 【\*原則的には奇数月の第2日曜日午前】
- ②会場: **大分県立図書館 研修室 No.5** [\*会場/通常は研修室No.5です]
- ③内容: **【I】芹沢文学に関する話題や情報** 10:00～10:15 am 自由に話す。  
**【II】芹沢文学読書会** 10:15～12:00 am 司会担当 小串 信正

### ○テキスト **長編小説『一つの世界 -サムライの末裔』**

今回は、長編小説をテキストにして、読み語りしたいと思います。大型連休で長編小説をお読み下さい。既に読んでいる方は、この機会に再読することをお勧めします。

初出/昭和27年10月～翌年の10月に、雑誌<婦人公論>に連載された長編小説です。

出版/昭和29年4月25日に中央公論社発行。1955(昭和30)年5月に仏訳出版。

再版/昭和30年8月20日に新書版『サムライの末裔』として角川書店から発行。

再録/『芹沢光治良作品集 第四巻』昭和49年7月15日新潮社発行に再録された。

再録/『芹沢光治良文学館 6』(平成8年8月10日 新潮社発行)に再録。5～169頁。

＝次回は、令和3(2021)年7月11日(日)午前の予定です。＝

◎同封資料； 童話「東京の海」芹沢光治良 雑誌<こども朝日>第244巻7月号 昭和22年7月15日 朝日新聞社発行 20～22頁。\*児童文学作品の一つ。名前に「みつじろう」のルビ。[資料提供 中村輝子]

## 芹沢文学・大分友の会



連絡先： 〒872-1651 大分県国東市国東町浜 4765(番地) 小串信正方

☎ FAX 0978(77)0565 郵便振替口座 01970-5-16072/芹沢文学・大分友の会

☆ 第148回・芹沢文学読書会の報告 ♪♪♪♪

3月14日(日)に大分県立図書館の研修室No.5で、第148回の芹沢文学読書会が行われました。新型コロナウイルスがまだ急増していますが、マスクをし消毒もして、読書会を行っています。小倉の金さん、中津の呉さんも来てくれて活気づきました。

テキストは『芹沢光治良文学館12』の随筆「三人の天皇を送った」と『大自然の唯一の神』に支えられ」を読み語りました。昭和から平成への改元の機に明治・大正・昭和天皇のことを回想。最晩年の連作を書いている時、宗派を超えた神を「大自然」と自覚。

今回の読書会は、久しぶりに長編小説『一つの世界』をテキストとしてみます。この長編小説が入手出来るでしょうか？ どうぞ、奮って御参加下さい。

◇朝日新聞に『父、芹沢光治良、その愛』(野沢朝子著)の広告がまた掲載されました

朝日新聞の令和3(2021)年4月9日の1面下の図書の広告に、野沢朝子著の『父、芹沢光治良、その愛』(明窓出版発行)がまた宣伝されました。「文豪・芹沢光治良」と紹介しています。

【芹沢文学案内 No. 96】 芹沢光治良と長編小説『一つの世界』 ♥◇♣♠

『巴里に死す』が仏訳出版されて、次に仏訳されたのが『一つの世界—又はサムライの末裔』です。昭和27年10月から翌年の10月まで、雑誌<婦人公論>に連載され、同29年4月25日に中央公論社から発行されました。青木和子夫人の仏訳は1955(昭和30)年5月20日にロベール・ラフォン社から『LA FIN DU SAMOURAÏ(サムライの末裔)』と副題の方で出版されました。それで、芹沢光治良は、仏訳を参考にし改稿して、昭和30年の8月20日に角川小説新書として『サムライの末裔』と題して刊行しました。昭和49年7月15日に新潮社から発行された『芹沢光治良作品集 第四巻』にも、『サムライの末裔』の題で収録されました。しかし、没後の平成8年8月10日に新潮社から発行された『芹沢光治良文学館 6』に収録された時には『一つの世界—サムライの末裔』と最初の題に戻されました。

『一つの世界—又はサムライの末裔』 雑誌連載

広島原爆投下の惨状が詳細に書き込まれています。原爆小説の先駆と言えます。戦後の連合軍(米軍)の進駐により、黒人差別や国際結婚から、肌の色を超えた「一つの世界」というテーマも追求されているのです。フランス語圏では多く愛読され、昭和32年にはフランスのアカデミーから、『巴里に死す』と『サムライの末裔』の作者として、「友好大賞」を受けました。

しかし、日本では評価されずに来ました。これから、本格的に研究され、評価していかねばならないと思います。この長編小説の題は『サムライの末裔』ではなく、『一つの世界—サムライの末裔』とすべきです。2019年12月12日に小学館から『サムライの末裔』の単行本と電気書籍が刊行されていますが、本の題名は『一つの世界—サムライの末裔』とすべきであったと思います。

この機会に、芹沢文学読書会としても、この長編小説を読み語りたいと思います。『芹沢光治良文学館 6』をテキストとして読みたいと思います。新潮社に在庫があるか不明です…。今後、新潮社等から、文庫版の『一つの世界—サムライの末裔』を刊行されることを念願しています。④